



橋本さんの故郷への思いが実を結び、毎年のようにクルーズ客船が寄港するようになったむつ市。大勢の観光客が船を降り、豊かな山海の幸を求め、風光明媚な観光地を訪れるようになった。船が出港する際には、橋本さん自ら「また来て欲しい」と願いを込めて手を振った。



- 1 熱烈な歓迎に、観光客のみなさんも喜ぶ。
- 2 観光の目玉のひとつ恐山には、たくさんの観光客が降り立つ。
- 3 過去4度寄港しているつぽん丸。今年秋には、日本を代表する客船「飛鳥II」の寄港も予定している。

どこにいたって、ふるさとを応援することはできるんです

東京表参道でイベント企画を手がける会社を運営するむつ市出身の橋本さんに、遠いまちにもも忘れない、ふるさとへの思いを伺いました。

人生いつ何が起きるか わからない

「ホテルの経営者になりたい。そう思って上京しました。27歳の時にホテルで行われる式典やパーティの企画・運営を行う会社を設立し、その後豪華客船飛鳥IIやつぽん丸に乗り込み海外を巡りながら船内でのエンターテインメントの企画・運営の仕事もさせてもらっています。」

子どもの頃から外国とホテルが大好きだったと話す橋本さんが、豪華客船とともに世界中でお仕事をされています。

「仕事の合間に観光しているとき、下北にも素敵なお店や美味しいものがここよりもたくさんあるのにな、下北の『素敵』を世界に伝えることができなかなと思っていました。故郷を離れてその良さがよく分かるということも何度か実感し、故郷のために何かできることがあればやってみたいと思うようになりました。」

そんな折りに、つぽん丸が新しい寄港地に大湊港を入れるかどうかという話が橋本さんの耳へ飛び込んできました。

「気がついたら誰に頼まれたわけでもないのに『てっぺん下北クルーズ企画』という企画書を作り、関係各所を訪ね歩いていました。宮下市長と一緒にトップセールスをして、4年前、つぽん丸の大湊港初寄港が実現することになったんです。当初は、このような仕事をしたいと明確に思っていたわけではなかったけれど、いろんな人とのつながりや仕事の巡り合わせが形になり、結果むつ市の応援となる仕事になりました。全く人生はいつ何が起きるかわからないですね。」

どこからでも応援できる

新成人のみなさんへエールをお願いします。

「むつ市の一員として一緒に考え、担ってくれる若者が沢山出てきて欲しいと心から願っています。みなさんの中には、むつ市に住み続ける人、一旦離れて戻って来る人、私



株式会社スウィング 代表取締役
橋本 洋子 さん

田名部高校、東洋大学短期大学ホテル観光学科を卒業後、ホテルニューオータニ勤務、英国 Bournemouth & Poole College での留学を経て、1984年に現在の株式会社スウィングを創業。社名の由来は、人の心の振り子を揺り動かしたいという願い。

のようにずっとむつ市以外に住み続ける人もいますが、それぞれの場所から故郷のことを思い、どこからでも自分のやっている仕事や経験を生かしむつ市を応援することができます。

私は、外国とホテルが今も好きです。その好きが私の人生に仕事に大きく関わり、続けてきたことでむつ市にお役に立てたことがあつてとても嬉しいです。

私たちには想像できないチャンスが取り巻いています。若い感性で自分の心の『いいな』『好きだな』の微かな動きを逃さず大切に『やってみる』『動いてみる』『会うてみる』『話してみる』。それを勇気と感謝で繰り返すことでコトが起こり、それは奇跡と言えるようなコトになったりします。

みなさんが大きな奇跡を自分に、むつ市に、起こしていけることを願っています。」



新成人代表
酒井 稔也 さん

田名部中から青森北高へ進学後、海上自衛隊に所属しむつ市在住。高校進学先選びの理由にもなった柔道では、現在も市の代表として県民大会に出場するなど鍛錬を重ねている。



- 1 3人兄弟の末っ子の酒井さん(中央)。
- 2 柔道に打ち込んだ学生時代。むつ市を離れて過ごした経験も、ふるさとを見つめ直す良い機会となった。
- 3 新成人を代表して決意を述べる酒井さん。仲間からの声援に、真剣な表情で応えた。

自分に関わってくれたたくさんの人のつながりがこのまちにはあるから

新成人代表の酒井稔也さん。高校で親元を離れ、地元むつ市で就職した酒井さんに成人としての思いを伺いました。

むつで働く道を選んだ理由

「同じ世代、同じむつ市に生まれた仲間を代表して、大人になつた決意を自分がみなさんに伝えたいと思ったんです。」

新成人代表に応募したきっかけをそう話す酒井さん。現在海上自衛隊に所属し、むつ市で仕事をされる若き酒井さんに、むつで働くことを選択した理由を聞きました。

「高校三年のときには、大学進学と就職の両方の選択肢がありました。結果として今むつ市

で働いていますが、もし大学に行っていたとしても、卒業後はむつ市に戻って働きたいと思っただと思います。それは、やっぱりむつ市が好きだし、昔から柔道やいろんなことを通じて自分に関わってくれたたくさんの人たちのつながりがこのまちにはあるから。学校を卒業して、進学などでみんな都会に出て行って、そのまま都会に残る人もいると思うんですけど、本当はやっぱりみんな地元に戻ってきて、みんな地元を盛り上げていければなと思っています。むつ市には、そんな

今思う、育ててくれた感謝と育ってくれたうれしさ

成人を迎え大人として認められた今、ご両親への思いを伺います。

「今まで、いろんな迷惑とかお世話になることがたくさんあったと思いますが、ここまで成長できたのは両親のおかげだと思っていて、これからは恩返しできるように頑張っていきたいです。」

この日、一緒にお話を伺った母みどりさんに、息子にどんな大人になってほしいか、伺いました。

「私たちは夫婦共働きたったので、産まれて6か月で保育所に通わせて、先生方にはとてもかわいがっていただいた思い出があります。記憶に残っているのは、ある



晴れの日を迎え、大人としての自覚と決意を胸にする酒井さん。立派な姿を前に、お母さんの表情も安堵に染まる。

日風邪をこじらせて何日も入院したことがあって、不安な毎日を経験したことです。でも、年齢を重ね大好きな柔道に打ち込むようになって、元氣な身体になっていきました。この子は男3人兄弟の末っ子なんですけど、お兄ちゃん二人から意地悪されても泣かない子で、気の強い子でした。この子が成人して、私たちがいわゆる子育てが終わることになります。安心という気持ちがありますね。自衛隊員となったからには、規律正しい大人になってほしいです。大人になるといろんなことが立ち上がると思うんですけど、頑張つてほしいなって思っています。」

「成人式」それは、自分が、我が子が、大人になった喜びを改めて感じる大切な一日なのです。